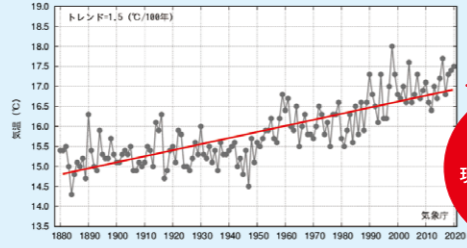


なんてよ、暑すぎやして! **今世紀末、和歌山県の平均気温は約4℃上昇!**

気温35℃以上の猛暑日が50日も増加。

地球温暖化は、私たちが暮らす和歌山にとっても他人事ではありません。和歌山県内における気候変動の将来予測によれば、21世紀末では、年平均気温が約4℃上昇^{※1}。最高気温35℃以上の猛暑日が、年間50日程度増加^{※1}する地域もあると予測されています。



21世紀末、年平均気温が現在の種子島より高くなるかも!^{※2}



※1 温室効果ガス排出シナリオの中で最も排出量が多い「RCP8.5」で予測。和歌山地方気象台「和歌山県の21世紀末の気候」より

資料/気象庁 ※2 現在の年平均気温の平年値 和歌山16.7℃ 種子島19.6℃

一人ひとりが少し変われば、和歌山の未来は大きく変わります。

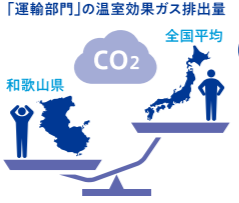
第5次和歌山県環境基本計画

2030年度の県内の温室効果ガス排出量 **30%削減**
(2013年度比の削減目標)

2050年度県内の温室効果ガス排出量【実質ゼロ】を目指します。和歌山県では、CO₂などの温室効果ガスについて、「2050年までに排出量実質ゼロとなること」を目指し、2030年度までに2013年比マイナス30%を削減目標としています。「将来にわたり笑顔と活気と魅力あふれる和歌山」の実現のため、気候変動に対する危機感や脱炭素社会に向けた認識を社会全体で共有し、一人ひとりが意識を変え、行動していくことが大切です。

和歌山県「運輸部門」の温室効果ガス排出量 **172万トン/年**
CO₂換算
県民1人当たり換算すると1.84t 全国平均の約1.2倍に相当!

和歌山県の運輸部門の温室効果ガス排出量は、県民1人当たり換算すると全国平均を上回っており、その88.9%は、自動車から排出されています。カーボンニュートラルの実現に向けて、電動車への買い替えやエコドライブの推進はとて有効な方法です。



運輸部門の88.9%を自動車が排出!

脱CO₂のカギは 電動車と省エネ!!
こりゃエエやいしよ! **脱CO₂!**
電動車×再生可能エネルギーで

風力や太陽光などの再生可能エネルギーで発電した電気や水素で走ると、より温室効果ガスの削減につながります。
和歌山県では、消費電力量に対する再生可能エネルギー発電量の割合が約24%!



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 和歌山県の計画について、詳しくはコチラ



毎日の生活にも「脱CO₂」のチャンスがいっぱい!

- リビングで** 観ていないテレビ、使わない部屋の照明はOFF!
- バスタイムに** シャワーやお湯の出っぱなしに気をつけるね!
- ドライブ前に** パパ!使わないゴルフバッグ、おろしてね!
- ご飯を作る時は** エコ・クッキングで夕食を作ってみよう!!

もしものとき…

電動車は電源に。

給電機能で、食事や灯り、情報も!!

トヨタの電動車の多くには、「アクセサリコンセント」(AC100V・1500W)が設定されており、停電時に、炊飯器・照明・スマホの充電など、災害時の暮らしを支えます。

電動車で「安心」を備えましょう。



VOC FREE 70%
VOC(揮発性有機化合物)成分フリーのインキを使用しました。
WA001-2110

和歌山県 Wakayama Prefecture
和歌山トヨタ 和歌山トヨペット
トヨタ モビリティパーツ和歌山
和歌山県と和歌山地区トヨタ各社は、電動車の普及促進を通じて、地球温暖化対策に向け取り組んでいます。

CO₂削減へ! 家族で考えるクルマ選び。
わが家のカーボンニュートラル

CARBON NEUTRAL



TOYOTA

素敵な未来を
叶えるための
身近な解決策!

電動車を選ぶことは、快適な明日を考えること。

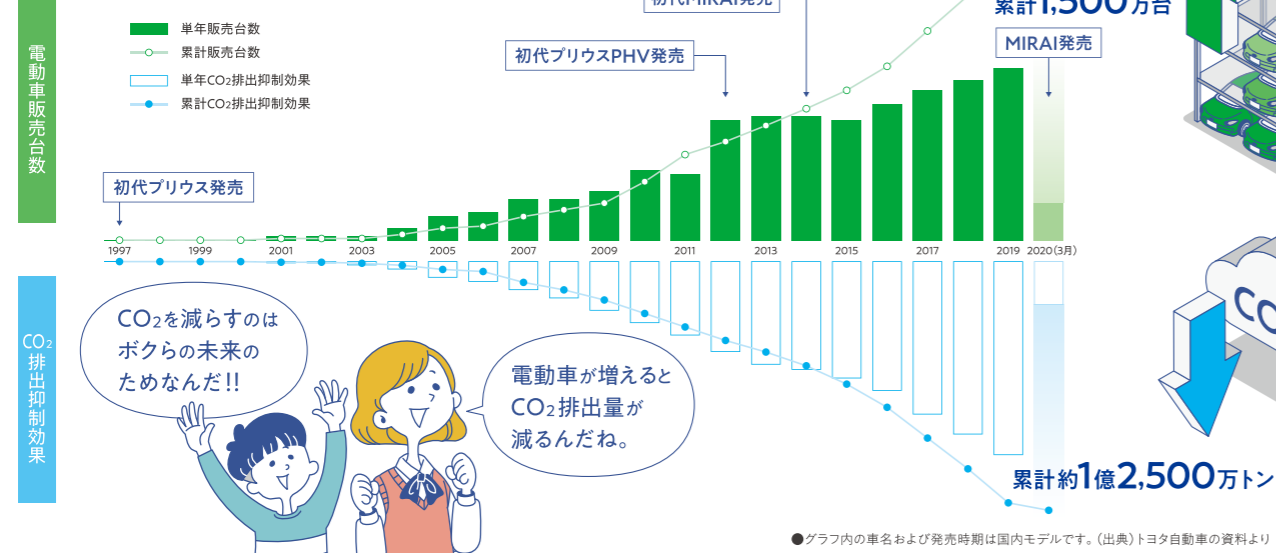
電気を動力に使う
クルマを「電動車」って
呼ぶんだよ。

家庭から排出されるCO₂の約1/4は、自動車から。

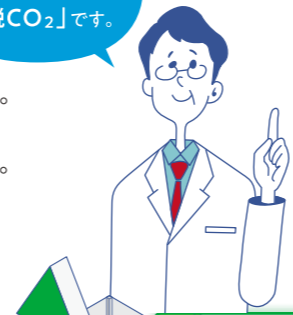
2050年までにCO₂(二酸化炭素)の排出を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」が話題になっています。産業だけでなく、私たちの家庭生活からもたくさんのCO₂が排出されており、その約1/4はクルマから。CO₂の排出が増えれば地球の温暖化は進みます。CO₂の排出を抑えたクルマ選びは、快適な明日につながっています。

トヨタはハイブリッド車などの販売により、1997年から2020年3月までに **約1億2,500万トンのCO₂を削減!**

■ グローバル電動車販売台数とCO₂排出抑制効果
(2020年3月末時点)



クルマ選びの
キーワードは、
「脱CO₂」です。



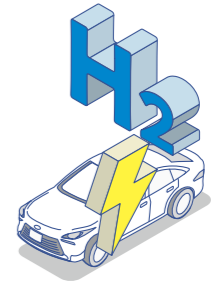
FCEV

燃料電池自動車

水素で発電して走行、CO₂排出ゼロで、出るのは水だけ。
通勤利用なら月一回の満タンでOK!

燃料電池自動車は、水素と酸素の化学反応で発電した電気を使ってモーターで走行。走行中に排出されるのは「水」だけでCO₂の排出はゼロ!トヨタの「MIRAI」は、一回あたり3分程度^{*1}の水素充填時間で、ロングドライブを可能にします。

※1.週5日、往復20km程度の距離を通勤だけに利用した場合。 ※2.SAE規格(U2601)の標準条件(外気温20℃、高圧水素タンク内の圧力10MPaからの充填)に基づいた水素充填圧82MPaステーションでの充填作業におけるトヨタ測定値。水素充填圧および外気温により、充填時間は異なります。



水素で発電して
走るんだ!

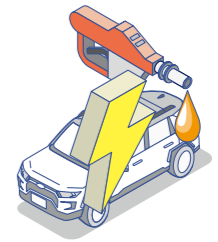


PHEV

プラグインハイブリッド車

環境への優しさも、優れた走りも、まさに“イイとこどり”!
ライフスタイルを広げる「移動する電源」。

PHEVは、言わば「自宅で充電できるハイブリッド車」。買い物など日頃のお出掛けは、電気だけで走行。長距離ドライブは、電気とガソリンを効率よく利用するハイブリッド走行。さらにAC外部給電システムを活用すれば、アウトドアの楽しみ方が広がります。



キャンプが
楽しくなりそうね!

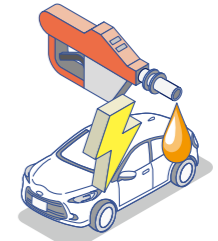


HEV

ハイブリッド車

発売以来20年以上が経過した実績のあるシステム。
車種のバリエーションも豊富です。

ガソリンによる「エンジン走行」と、走りながらバッテリーに蓄えた電気による「モーター走行」をクルマ自身が効率よく選んで走行。長距離ドライブも得意です。トヨタでは、ハイブリッド車を20年以上前から販売しておりバリエーションも豊富です。



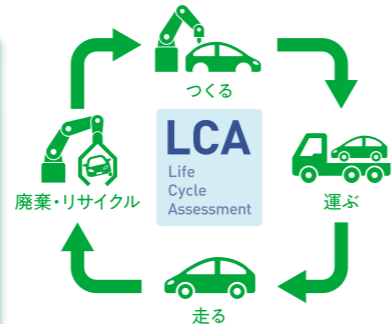
ミニバンも、
コンパクトもSUVも!!



つくる時も、リサイクルする時も、クルマのすべてのシーンでCO₂排出ゼロを。

クルマが走る時に排出するCO₂を減らすだけではなく、クルマをつくる時、運ぶ時、廃棄・リサイクルする時などにおいてもCO₂排出を減らさなければ、カーボンニュートラルは達成できません。トヨタでは、LCA(ライフサイクルアセスメント)という考えのもと、クルマのライフサイクル全体で「脱CO₂」にチャレンジしています。

CO₂の削減は、
走るだけに
限らないよ!



トヨタの多彩な電動車ラインアップは、脱炭素社会へ向けた「多様な選択肢」です。



脱炭素社会への
「こたえ」は
ひとつじゃないんだよ。



●PHEVとPHVは同じものを指しています。●掲載の内容は2021年10月現在のものです。